

●演習ワークシート

実習日： 月 日

研修生番号：

研修生氏名：

事例 1

症例：60歳，女性

主訴：呼吸困難

現病歴：僧帽弁閉鎖不全症，心房細動で通院加療中。感冒を機に，7日前から徐々に下肢浮腫が出現し，体重が3kg増加。本日から呼吸困難感を自覚するようになり，息苦しくて臥位になれず，救急要請した。



来院時現症：

意識	体温	呼吸数	SpO ₂
清明	37.6℃	36回/分 起座呼吸	90% (救急車内鼻カニューレ O ₂ 6L/分)

血圧	脈拍数
122/66mmHg	150回/分 (不整)

眼瞼結膜：貧血なし，黄疸なし

心音：Ⅲ音 (+) Ⅳ音 (-) 心尖部に全収縮期雑音 (Ⅳ/Ⅵ)

肺音：両肺野に粗い断続性副雑音 (Coarse crackles)

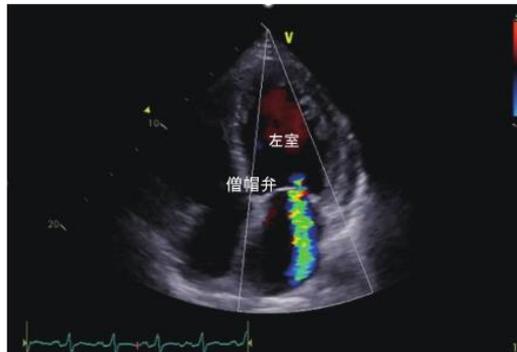
腹部：平坦かつ軟 腹部腫瘤の触知なし

下肢：浮腫 (3+) (左右差なし)

胸部 X 線と心エコー図



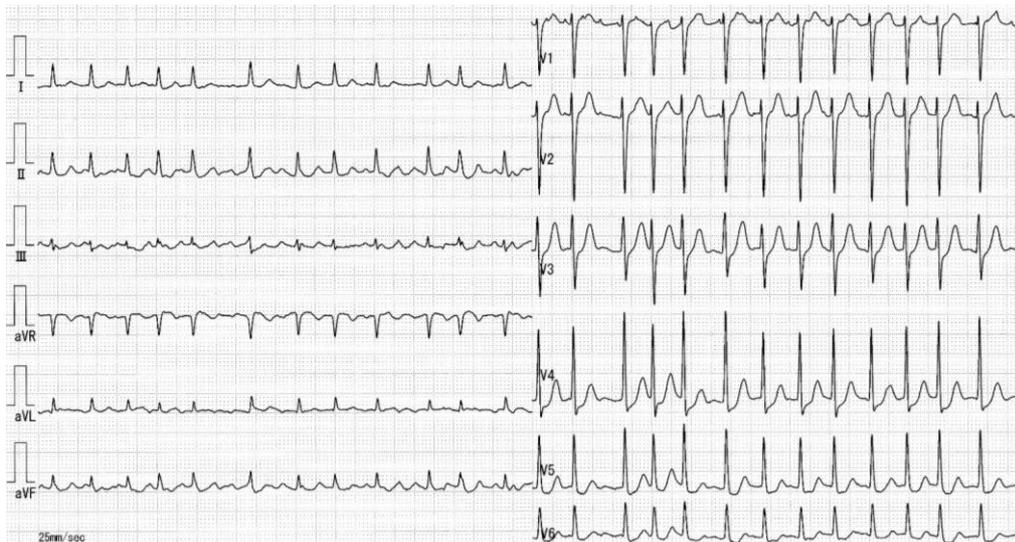
心陰影の拡大
肺うっ血 胸水貯留



高度の僧帽弁逆流

●演習ワークシート

心電図



心拍数 150 回/分 頻脈性心房細動

経過：

僧帽弁閉鎖不全症による慢性心不全の急性増悪。著しい下肢浮腫を認め、クリニカルシナリオ（CS）2 と診断された。Wet & Warm，体液貯留，心不全に対してフロセミド 10mg 静注，カルペリチド（ハンブ®）の持続点滴を開始した。

集中治療室に入室。60 分で尿量 1200mL を認め，呼吸困難は改善傾向，状態安定

演習課題 1

下記の状態にある場合，手順書に従って利尿薬の投与量の調整を行えるかを考察してください。

- ⑩ カルペリチド持続点滴 0.025y
- ⑩ フロセミド 10mg 静注
- ⑩ 息苦しさが少し残っている
- ⑩ 投与後，医師は未確認
- ⑩ 収縮期血圧 110mmHg
- ⑩ Wet & Warm
- ⑩ 徐々に尿量が減少し，60 分で 20mL

●演習ワークシート

演習課題 2

下記の状態にある場合、手順書に従って利尿薬の投与量の調整を行えるかを考察してください。

- ⑩ カルペリチド持続点滴 0.025 μ y
- ⑩ フロセミド 10mg 静注
- ⑩ 尿量 1200mL を認め、呼吸状態は安定
- ⑩ 投与後、医師が全身状態や尿量を確認し、治療継続と判断した
- ⑩ 収縮期血圧 110mmHg 前後を推移
- ⑩ Wet & Warm
- ⑩ 徐々に尿量が減少し、60 分で 35mL

演習課題 3

手順書に従って利尿薬の投与量の調整について、特定行為の内容を記載してください。

- ⑩ カルペリチド・フロセミド

●演習ワークシート

演習課題 4

下記の状態にある場合、手順書に従って利尿薬の投与量の調整を行えるかを考察してください。

- ⑩ カルペリチド持続点滴 0.025y
- ⑩ フロセミド 10mg 投与
- ⑩ 意識レベル変化なし
- ⑩ 尿量 1200mL を認め、呼吸状態は改善
- ⑩ 医師が全身状態や尿量を確認、治療継続と判断した
- ⑩ 収縮期血圧 110mmHg 前後を推移
- ⑩ その他のバイタルサイン変化なし
- ⑩ SpO₂92% (酸素 3L/分)
- ⑩ Wet & Warm
- ⑩ 徐々に尿量が減少し、60 分で 20mL

演習課題 5

下記の状態にある場合、手順書に従って利尿薬の投与量の調整を行えるかを考察してください。

- ⑩ カルペリチド持続点滴 0.025y
- ⑩ フロセミド 10mg 静注
- ⑩ 意識状態は変化なし
- ⑩ 尿量 1200mL, 呼吸状態は安定
- ⑩ 医師が全身状態や尿量を確認し、治療継続と判断
- ⑩ 収縮期血圧 110mmHg
- ⑩ その他のバイタルサイン変化なし
- ⑩ SpO₂ 94% (酸素 3L/分)
- ⑩ Wet & Warm
- ⑩ 徐々に尿量が減少し、60 分で 35mL

●演習ワークシート

演習課題 6

手順書に従って利尿薬の投与量の調整について、特定行為の内容を記載してください。

- ⑩ カルペリチド・フロセミド